



世界音楽祭
オーガスト・イン・ヒロシマ'99
 ～広島から発信 地球がうたう夏～
 グランドコンサート“TOGETHER”
 (8/21 サンプラザ)
 ほか 

「語り継ぐために」

「知っておきたいヒロシマ講座」

七回シリーズで開講

原爆ドームのユネスコ世界遺産登録を契機に、「改めてヒロシマを学び直したい」という声
 が、広島市民、国内のユネスコ協会の間に拡がりつつあります。これに應えるためには、ユネスコ会員、市民一人ひとりが、「語り部」としての役割りを果たすことが求められています。広島ユネスコ協会では、こうした時代の要請にこたえて、(財)広島平和文化センターと共催

して、「知っておきたいヒロシマ講座」を開講することになりました。講座では熟達した講師が提供するヒロシマの各分野にわたる情報を通じて、「井戸端」の語り部育成と平和実現への熱意を改めて喚起することを目指すとにしています。

【実施要領】◇日時／九月～来年三月、毎月第四水曜日午後六時半～八時。碑めぐりは土曜日



会長就任にあたって
 広島ユネスコ協会会長
 北川建次

このたび、図らずも伝統ある広島ユネスコ協会の会長となり、重責を痛感しております。私の恩師内海巖先生は、ユネスコの権威者であり、広島大学に入学したときからユネスコについての講義がありました。その後、縁あって、私も広島大学の一員となり、恩師の教えを奉じて学生にユネスコの精神について、33年間教えてきました。また、広島市や県、全国各地でユネスコの精神に則った活動をし、中国やインド、さらにフランスでも折にふれ、こうした活動をしてきました。地理学の国際会議の折、パリのユネスコ本部を訪れて感激したものです。昭和48年から広島ユネスコ協会の活動が再び盛んとなり、私も理事の一員として活動に加わりました。内海先生をはじめ、永井先生、伊東先生、河村先生、さらには岡田先生、松原先生、信井先生など歴代の会長、そのほか多くの方々の驥尾に付して、微力ながら広島の地において、ノーモアヒロシマズ、ユネスコの精神に則って活動を皆様とともに進めてゆきたいと思っております。

ことしもユ
 ネスコ活動
 奨励賞募集

「広島ユネスコ活動奨励賞」は昨年、協会結成二十五周年を記念し、つね日頃「心に平和の岩を築くべく活動を続けておられる人々への敬意と励まし」の賞として創設されましたが、本年度も次の要領で募集いたします。

午後◇会場／広島平和記念資料館東館◇定員／五十人◇資料代として二千元。
 【内容】①原爆ドーム・世界遺産②広島の前・戦後③碑めぐり④被爆の実相⑤科学⑥文化⑦世界の核(講師は広島平和文化センター、広島市立大学、マスコミ等関係者)
 【応募方法】往復はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、〒730-0005 広島市中区白鳥町二四一三六 広島市中央公民館へ九月十日までに。

- その趣旨の周知、応募推進等のご協力をお願いします。
- 【趣旨】広島市における学校教育と社会教育で国際理解、国際協力、国際交流をすすめる活動の育成と推進に資する。
 - 【部門】(1)学校／広島市内の公立・私立の小・中学校、高等学校(学校、学年、学級、クラブを単位とした児童・生徒による団体活動) (2)社会／地区公民館活動、グループ活動
 - 【活動内容】国際理解、国際協力、国際交流分野の継続的活動
 - 【募集期間】一九九九年十月一日～十一月三十日
 - 【審査会】学識経験者等で構成
 - 【発表】一九九九年十二月下旬
 - 【表彰】部門毎に表彰状、楯を表彰式(二〇〇〇年一月)で授与する。
 - 【後援】広島市教育委員会
 - 【応募用紙の請求及び提出先】広島ユネスコ協会事務局(〒730-0006 広島市東区牛田新町一八二三 牛田公民館気付)

総会で年度事業決定

新体制スタート

一九九九年総会が五月二十九日開かれ、新年度の事業計画などが、熱心な討議を経て決定されました。

総会の初め、当協会の名誉会長でもある秋葉忠利広島市長が自らのユネスコとの関わりを披瀝しつつ、ユネスコ運動が担う役割が重要であることを説いて祝辞を述べられました。

議事の冒頭、前年度事業に関する、広島ユネスコ活動奨励賞をはじめ当協会結成二十五周年記念事業の成果などを総括し、通常会計、記念事業および原爆ドーム絵はがき発行事業中間収支の各決算が承認されました。

新年度事業は世界遺産・原爆ドームを導入口にした「知っておきたいヒロシマ講座」(7回シリーズ)の新設・開講、ユネスコ入会案内パンフレット発行の新企画を、また継続事業とし

て第二回広島ユネスコ活動奨励賞公募、原爆ドーム絵はがき頒布等を、ともども審議・決定しました。

なお、広島市の姉妹都市、韓国・大邱市のユネスコ協会との交流を図る「動議」に対し、推進することが確認されました。

次いで、新年度役員体制(別掲)、会則(規約)改正(役員に準ずる条項に関して「名誉顧問」を新設)が審議・承認され、総会を終えました。

一九九九年役員

◇名誉会長 秋葉忠利 ◇名誉顧問 平岡敬 ◇顧問 永井滋郎、松原博臣、沖原豊、加藤朗

退任あいさつ

前会長 信井正行

結成二十五周年の記念の年に会長を仰せつかったことを大変光栄に存じています。

ユネスコが目指す二つの運動、識字教育運動と世界遺産登録について所懐の一端を述べて退任の挨拶にかえさせていただきます。

もともとユネスコは第二次世界大戦末期、戦争による教育の荒廃を憂える敗戦国の文部大臣たちによる教育復興のための会議が始まりと言われています。

その延長として今日、発展途上国の非識字者をなくすための学校建設が進められています。

ひるがえってわが国の場合、百分近い識字率、高校全入ほぼ達成という経済的富裕の中の教育、荒廃が言われています。

誠に皮肉なカリカチュアと言

わねばなりません。

一方、原爆ドームは世界遺産登録により、広島市民の財産から世界人類の遺産になったのです。

核廃絶の運動も核保有者への要求というよりも、その一員としての立場から人類の将来のためにお互い考え合おうという立場に立たされることになったのではないのでしょうか。今後協会のますますの発展を祈念いたします。

新役員紹介

理事 足立柳子

初めて担任した六年の社会科で、ユネスコの学習をしました。

「ユネスコは、国連の教育科学文化機関です。教育・科学・文化面で国際協力を促進し、相互理解を深めて平和の基礎を作る目的で設定されました……」。

ふと一人の男の子が、「心の中にとりどって何なの」と質問した時、新任の私がどう答えたか全く覚えていません。

この度、思いもかけない役を申し付けられたのは、その償いをしなさいということではないかと思っております。

理事 松原博子

世界は今やボーダレス・グローバルの時代、各国の異なった政治体制を乗り越え共に世界平和を。昨年の『世界遺産国際ユースフォーラム』において、私は世界遺産を持ち、かつ平和都市広島のあるユネスコ協会の会員であること、また今後何をしなければならぬかを考える機会を与えられたことに感謝しました。

この度は、役員に就任させて戴きまして、昨年の気持ちを思い起こし、微力ではございますが、皆様のご指導を仰ぎ勤めさせていただきます。

■会費納入■
未納の方はお早めをお願いいたします。

第55回ユネスコ運動 全国大会に参加して

太鼓矢 晋

第五十五回日本ユネスコ運動全国大会が「地球環境と私たち」をテーマに一九九九年六月十二、十三の両日、岡山市で開かれた。

広島ユネスコ協会からは、北川建次会長、木村進匡副会長、太鼓矢晋常任理事、田川哲也会員が参加した。

本大会第一日は、ヴァイオリニスト二村英仁氏のオーブニングコンサートで開幕。開会式、「映像で見る世界遺産」「ユネスコ環境教育キットの発表」に続き、ユネスコフォーラム(1)「海・森・空から見た地球環境と私たち」では、石澤清史氏の司会、四ノ宮浩、堂本暁子、寺西俊一の三氏によって、生物多様性の尊重、未来社会への継承、環境ホルモン・ダイオキシン対策等について幅広く、深刻な地球環境問題が論じられ、田代美代子さんのイブニングコンサートで初日を終了。内容ゆたかな感銘深いものであった。

大会二日目は、「21世紀を担う子どもたちへのメッセージ」と題するフォーラム(2)で、次の時代を担う青少年の育成を目的に、私たちは未来の展望をどのように切り開いていくべきかを話し合った後、次の五十年を見据え、地球環境を保全していく

ために、世界の全ての人が共有すべき想いや理念を「岡山大会宣言」として発表、全国大会を意義深いものとして閉幕した。なお、今回は二〇〇〇年六月一〇日(土)・一一日(日)、千葉市で開催される。(常任理事)

木村進匡

「地球環境と私たち」をテーマに、標記大会が六月十二日・十三日に「岡山シンフォニーホール」を主会場に開かれた。地球環境保全活動に焦点を絞り、青少年などが自発的な行動を起こすための動機づくりの環境学習キットの発表など、若者を中心のプログラムは活気があ

り、多彩でした。市民に公開したフォーラムも「海・森・空から見た地球環境と私たち」「二十一世紀に向けた民間ユネスコ運動への期待」「子供たちへのメッセージ」でじっくり環境問題を考えさせられました。二十数人の韓国からの参加者のうち、期待した大邱市の方にはお会いできず残念でした。(副会長)

田川哲也

全国大会にて青年プログラムを中心に出席させていただきました。環境というユネスコ活動では、やや間接的な視点での報告は従来の大会とは違い興味深

いものでした。岡山では、岡山大学生を中心とした「岡山ユースユネスコ」がそれぞれアイデアを出し、青年独自の活動を行っていました。また、大会当日の各ユ協の青年部員との交流も有意義なものでした。ユネスコ精神の周知と、新メンバー獲得のための活動との狭間で大変苦労していました。

世界遺産の原爆ドーム及び厳島神社の研修ツアーで、原水禁運動発祥の地と言われる東京杉並ユネスコ協会から青年部12人(うちイタリア人留学生一人、引率理事一人)が、三月十六日(十八日、来広。当協会が組んだ日程(高橋昭博副会長の講話をはじめ高橋さんの解説による広島原爆資料館見学、原爆ドーム・碑巡り)ガイド付き、本川小学校地下室見学・同校教頭解説、厳島神社見学・学芸員によ

会員の声

かねてから感じているところですが、広島ユネスコ協会には、会の運営について、気軽に意見を申し述べる機会がないのではないのでしょうか。そういうことで、提案をひとつ。ユネスコ・サロンを講師のレクチャーだけでなく、少くとも二回に一回は、テーマを決めて会員による話し合いの場とすることを検討してはいかがでしょうか。その際、必要なら専門家を助言者として招へいするのです。前回サロンの終了時にテーマをいくつかあげて、その中からひとつを決めて次回のテーマとすることも、テーマの決定の方法でしょう。

会員たちが自分たちの会に参加するんだという気持ちにさせられるのではないのでしょうか。テーマの例をあげますと、(教育)日本の教育はなぜ荒廃したのか(科学)クローンは果して科学といえるのか(文化)医学倫理とか政治倫理という場合の倫理とはなにかーなどです。情報を単に受身の形で受けとることが情報化時代の生き方ではないと思います。(一会員)

世界遺産に学ぶ 杉並ユ協青年たち

「会員の声を紙面に」との注文が広報部に寄せられました。早速「声」欄を設けました。次号も継続しますので投稿ください。次号原稿は九月末の締

投稿欄新設

「会員の声を紙面に」との注文が広報部に寄せられました。早速「声」欄を設けました。次号も継続しますので投稿ください。次号原稿は九月末の締

他誌済々

◇「平和文化」◇

(財)広島平和文化センター発行「平和文化」六月一日号で広島県ユネスコ連絡協議会永井滋郎会長(当協会顧問)が、「2000年は平和の文化国際年ユネスコと平和文化」と題して寄稿されています。

記事は、「平和の文化とは」「平和の文化の成立過程」「平和の文化の歴史意義」の柱で構成され、国連が来年を「平和の文化国際年」とし、ユネスコは来年からの十年間を「平和の文化と非暴力の十年」と定めた経緯と意義が解説されています。

◇鎌倉ユネスコ◇

広島出身の日本画家・平山郁夫さん(日ユ協連副会長)が会長の鎌倉ユネスコ協会発行の季刊誌六月号で当協会信井正行顧問(執筆当時会長)の記事を、「原爆ドームと広島ユネスコ」と題したコラムで紹介。

「原爆ドームの世界遺産登録直後、米国と中国政府が遺憾の意を表明したものの登録が実現。ユネスコは国連機関ではあるが、五大国が拒否権を行使す

る国連とは違う、と実感した」(当協会結成二十五周年記念の「機関紙」でのあいさつ)を引用して、鎌倉ユ協の編集者は「平和・不戦の人類記念碑として遺産登録に力を尽くした人の言は重い」と結ぶ。

◇「ユネスコ」◇

日ユ協連発行月刊機関誌「ユネスコ」六月号に杉並ユネスコ協会青年部が三月に行った広島ユネスコ世界遺産研修ツアーを、「こちら青年部」という記事で青年部長の板倉七重さん(中央大二年生)が報告しています。

「広島ユ協の力をお借りして素晴らしい経験をしてきた……高橋昭博副会長から被爆体験をうかがい、慰霊碑巡りをしているうちに参加者の表情が変化し被爆という事実に全員複雑な気持ちになった……原水爆という殺人兵器に対する憎悪がジワジワとこみ上げてきた……」と。
※関連記事「世界遺産に学ぶ杉並・青年たち」参照

日誌

【三月】
十一日 ひろしま国際交流サミット(事務局長)

【七月】
八日 組織部会(入会案内パンフレット検討)

十五日 役員選考委員会

十六日 杉並ユネスコ青年部、世界遺産学習で来広

十九日 世界音楽祭実行委員会(信井会長出席)

二十五日 機関誌第45号発行

【四月】
十七日 第86回ユネスコ・サロン「都市のデザイン・乗り物の美学」デザイン総研・山田晃三部長

同日 理事会

二六日 広島市長訪問(北川建次会長ほか)

【五月】
八日 正副会長会議

二六日 文化部会

二九日 総会、懇親会

同日 第87回ユネスコ・サロン「国際理解の課題と展望」広島大学大学院国際協力研究科長・中山修一教授

【六月】

一日 平和・国際部会

一二日 全国大会(北川会長、木村副会長、太鼓矢常任理事、田川会員出席。十三日まで)

一七日 第88回ユネスコ・サロン「広島の水百科名水から環境まで」

広島国際学院大学大学院工学研究科・佐々木健教授

同日 理事会

後援・協力事業(名義)

▽後援 世界遺産写真展(中国放送ほか主催、TBS協力)。八月三日(九日、広島をこう催し場。入場無料。

▽協力 ユネスコ青少年国際理解教育プログラム(中学生・高校生夏休み海外研修(大阪ユネスコ協会ほか主催)。

第89回ユネスコ・サロン

とき..九月十八日(土)

午後一時半

ところ..広島アンデルセン(中区本通り)

テーマ..「広島島の伝統産業」(仏壇)

講師..熊本ヒロ子さん(熊本仏壇社長)

会費..千円(含茶菓子代)

水野監事の死を悼む

本会監事の水野文隆さんが去る五月十一日、ご逝去されました。慢性腎不全に加えて心臓を悪くし、昨年九月から入院・加療されていましたが、再びお元気な姿でお会いすることができませんでした。五十七歳の生涯はあまりにも短かすぎました。残念でなりません。

水野さんは、広島ユネスコ協会創立のために、準備会から参画され、以来四半世紀の間、協会の維持・発展に尽されたこととは、ご案内のとおりです。ことしの協会結成二十五周年記念行事では、会長表彰も受けられました。中でも、昭和五十九年の民間ユネスコ運動世界大会が広島で開かれた際には、卓抜した識見をもって適切なアドバイスをしていただき、成功に導いてくださったことは今でも忘れられない思い出となっています。

ご逝去にあたり、これまでのご貢献に感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。(常任理事・古田碩永)